

日米グローバルヘルス協力対話

加藤大臣 特別発言

2018年9月28日

1. はじめに

- CSIS（戦略国際問題研究所：Center for Strategic and International Studies）、NAM（米国医学研究所：US National Academy of Medicine）とJCIE（日本国際交流センター：Japan Center for International Exchange）の皆様には、本日、このような貴重な場にお招きいただいたことに感謝申し上げます。5月にワシントンでエイザー長官にお会いした際に、健康危機管理の話題などで大いに盛り上がりました。本日の会合にエイザー長官が参加できないことは残念ですが、ニューヨークで26日にお会いした際には健康危機に対する両国の強い関心を再確認させていただきました。本日の日米グローバルヘルス協力対話の場で、本日ご参加の米国におけるグローバルヘルスのリーダーの皆様とお会いできることを楽しみにしておりました。
- 日米グローバルヘルス協力対話は今回で3回目と伺っていますが、グローバルヘルスの分野で世界をリードする米国と日本との間で、このような交流が継続されていることを大変喜ばしく思っております。

2. グローバル・ヘルスセキュリティに関して

- 今年5月に起こり、そして8月から再度発生しているコンゴ民主共和国でのエボラ出血熱アウトブレイクは、我々に改めて公衆衛生危機対応の強化の必要性を示しました。
- ただ、2014年のアウトブレイクと異なり、現在は、健康危機の際の資金メカニズムとしてG7伊勢志摩サミットやG7神戸保健大臣会合で設立を後押ししたWHOのCFE（緊急対応基金：Contingency Fund for Emergencies）、世銀のPEF（パンデミック緊急ファシリティ：Pandemic Emergency Financing Facility）など新しいメカニズムが存在しています。このような新たな資金メカニズムが、今回のエボラ対応でどのように機能したのか、CFEやPEFが安定的かつ効果的に運営を続けるため、資金確保はいかにあるべきか、発動基準の見直しはどのようにあるべきか、等について、この分野をリードする日米の専門家が検討することは非常に有益です。
- 加えて、今後、国際化の進展に伴い国境を越える感染症の脅威が増す中、従来から強調されてきた国際保健規則（IHR（国際保健規則：International Health Regulations））に基づいた世界各国のコアキャパシティ強化が一段と重要になります。中でも、健康危機事案が発生した際に、各国がいかに早くそれを検知して、WHOにこれを報告するかが重要ですが、これを阻んでいる要因があるとするならば、これをしっかり分析して、対策を取っていくべきです。また、早く報告した方が、早く対策を取ることができ、結局はその国のためになる、ということをしっかり認識していただき、これを国際的なメカ

ニズムの中でもきちんと強調していくことが必要です。

- 本日は、このようなグローバル・ヘルスセキュリティの課題について、日米の専門家による活発な議論がなされることを期待しています。

3. 保健システム強化に関して

- 本日のもう一つの議題は保健システム強化です。私は、強靱で持続可能かつ包括的な保健システム強化が公衆衛生危機へのより良い備えとなることを確信しています。我々は、本年に入ってから多くの自然災害を経験しております。例えば7月には、私の地元の岡山が集中豪雨の被害を受け、多くの住民が避難を余儀なくされました。また、3週間前には北海道でマグニチュード6.7の地震があり、北海道全域が停電となり、多くの医療機関も影響を受けました。日本にとどまらずアジア地域では台風の被害を毎年多く受けていますが、米国でもつい先日、ハリケーン・フローレンスによる被害が発生しています。被害を受けた方々には心からお見舞いを申し上げます。
- 日本では、災害発生時にも初期救急対応ができるよう、地域の基幹病院を災害拠点病院に指定して、被災地域内の傷病者の受け入れや搬出が可能な体制を整備している他、被害を受けた地域に医師や保健師などが他地域から応援に入る体制を構築して、緊急時にも必要な医療や保健サービスが提供されるよう努めています。
- 最も重要なことは、様々な事案が発生した場合にも、それらに柔軟かつ的確に対応できるよう、平時から保健システムを整備しておくことであると考えます。本日は、復元力のある(resilient)強固な(robust)保健システムを災害が起こる以前にいかに構築しておくか、という観点からも意見交換していただければ幸いです。

4. おわりに

- 本日は日米の専門家が活発な意見交換を行い、今後の課題や取組について実り多い議論が行われることを期待しています。ご静聴ありがとうございました。